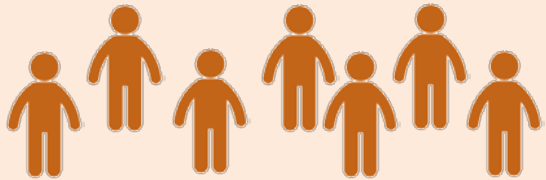


廃炉コミュニケーションに係る直近の取組と 今後の方向性について

令和元年 7 月 1 日

廃炉・汚染水対策チーム事務局



地域で積極的に活動している皆様

- 地域の声の共有
- 疑問や不安の共有
- 「場」の設定や既存の場の活用
- 施策等に対する提案



政府



NDF



東京電力

- 進捗状況の提供
- リアルタイムの情報提供
- 「場」の設定
- 提案された施策等の実現

廃炉



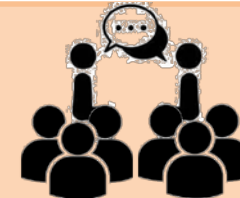
既存のオケージョンへの
組み込み

- ◆ 既存の集会や行事で「廃炉」をテーマとした情報提供等の場を構築



直接的な対話

- ◆ 車座などの少人数の対話形式の意見交換



シンポジウム等の開催

- ◆ 福島第一廃炉国際フォーラム（NDF主催）などの住民・専門家を交えたイベントを実施



広報コンテンツの波及

- ◆ 不安や疑問に応えるパンフレットや動画コンテンツを配信



行事等での
廃炉ブースの展開

- ◆ 人が集まるイベントや祭りで、廃炉に関するブース等を展示し、情報を提供



現地視察の企画

- ◆ 福島第一原子力発電所や周辺地域の復興状況の視察を実施

●パンフレット・動画等の作成・発信

○廃炉の大切な話2019

- 製作段階から各市町村や住民の方々の御意見を伺った上で、**地域の方の疑問や不安にお答えさせていただく形で制作。**
- 前年度同様、**県内全市町村・全都道府県に配布。**また、各市町村に御協力いただき、**避難指示区域の皆様には4・5月に広報誌に同封するなどして全戸配布を実施。**

⇒ **発電所の視察やイベント等を通じて、関心のある方の手元にお届けしていく。**



○その他解説記事等

- 資源エネルギー庁HPに英国原子力廃止措置機関（NDA）の戦略・技術担当理事シンパー氏の**インタビュー記事**や、ALPS処理水関連の特集記事として**放射性物質の規制基準について解説した記事を掲載。**等

⇒ **引き続き、様々な媒体での分かりやすい情報発信に努める。**



○広報動画

- 廃炉の進捗全体をお伝えする動画を作成するとともに、多くの方に関心を持っていただくため、廃炉に携わる方の想いを紹介するシリーズ動画「廃炉のいま～現場を支える思い～」を作成。SNSを活用して幅広く周知。



第一弾（3月8日公開）

- ： コンビニや食堂の運営・バスの運行など、様々な形で現場の廃炉作業を支えてくださっている方々に着目。



第二弾（3月28日公開）

- ： 多核種除去設備（ALPS）の整備を行う方や、海水や地下水などのサンプリングを行う方、周辺海域の水質を分析する方など、現場で汚染水の管理やコントロールを行われている方々に着目。



第三弾（6月14日公開）

- ： 廃炉作業の中でも最難関の取組である燃料デブリの取り出しに向けた、放射線量の高い原子炉格納容器内部の遠隔調査に用いられた装置を開発した方に着目。



⇒ **今年度も、わかりやすく、見てもらいやすい工夫を凝らしながら、動画の作成を継続。**

●大学教員等向けバスツアーの実施

- 1月・3月にイノベーションコースト構想機構の復興知事業に係わる国内の大学教員や学生を対象として、1 F 構内とともに廃炉資料館や周辺地域を視察するツアーを実施。
- 参加者からは「経験を家族や学生に共有したい」「ゼミや授業を通じてディスカッションの機会としたい」「また同様の機会が欲しい」といったコメントが多く聞かれた。



●イベントにおける廃炉ブース出展・一般市民の1 F 視察の実施

- 5月、浪江町で月に一度行われるイベント「まるしえの日」に、浪江町役場、東京電力と連携し、廃炉に関する説明を行うブースを設置。皆様の廃炉に関する疑問にお答えするとともに廃炉に対する想いを伺った。
- 合わせて、東京工業大学の協力で、ロボット操縦体験コーナーを併設。家族で楽しみながら廃炉関連技術に触れる場を創出。（来訪者 1日目：15名、2日目：50名）
- また、6月に浪江町役場主催で、一般住民を対象とした視察を実施（上記イベント、浪江町の広報誌・メールマガジン等で募集。県外避難者の参加を実現）。視察後に行った座談会では多くの質問や様々な感想をお聞かせいただいた。参加者からは総じて、直接現場を見れたことは良かった、との評価をいただいた。



⇒ **引き続き、様々な機会をとらえて廃炉の状況を地元の方に丁寧にお伝えできるよう取り組んでいく。**

- 工ネ庁・東京電力主催で、廃炉資料館の見学、1F構内の視察、廃炉に関する座談会をセットとしたツアーを企画・検討中。
- 秋を目途に第1回のツアーを開催予定。以降、状況を見ながら年度内に数回開催。
- 地元の住民の皆様に参加に関しては、各自治体とも御相談させていただきながら、参加者の募集等を進めさせていただきたい。



○外国語でのコンテンツ制作・発信

- 動画投稿サイトにおいて廃炉・汚染水対策の現状の解説動画（英語版）を発信。国際原子力機関（IAEA）総会においても上映を実施。
- 多言語訪日観光ウェブマガジンで外国人旅行者等に向けて1F及び周辺地域の視察を特集した記事を発信（英・中・韓等8言語）
- 外国との相互理解を推進する財団法人の英文機関紙等（欧米やアジアの言論界・経済界等から広く購読）にも記事を掲載。
- 廃炉の大切な話2019についても、海外各国や外国人旅行者に対する発信のため、英語版を作成中。

○外国政府・プレス等に対する広報活動

- 在京外交団担当者や外国プレスを対象にブリーフィングを実施。
- 「福島第一原発廃炉・食品安全に関するシンポジウム」開催（@パリ、OECD/NEA・経産省・農水省共催）（2019年3月）。
- その他、海外での各種イベントの場等を活用し、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水の状況等について説明

⇒ **引き続き、諸外国における福島第一原発の現状や、廃炉・汚染水対策の進捗に関する正確な理解の促進のため、海外に対する情報発信にも積極的に取り組む。**



動画「Fukushima Today」



多言語訪日観光ウェブマガジン「MATCHA」



福島第一原発廃炉・食品安全に関するシンポジウム

○福島県産農林水産物の風評払拭

- 生産・流通・販売の全段階において、風評の払拭に向けた対策を抜本的に強化。（農林水産省「福島県農林水産業再生総合事業：47億円」）
- 「福島県産農産物等流通実態調査」の結果に基づき、小売事業者等に対する指導・助言を実施。
- また、国・県・J Aで連携し、風評被害の実態や施策の効果を継続的に検証し、有効かつ具体的な施策を実施する観点から「風評払拭協議会」を創設。

生産段階

- ・ G A P取得支援
- ・ 全量全袋検査やモニタリングの支援 等

流通段階

- ・ 流通実態調査
国が卸・仲卸100社以上、小売20社以上等を調査。
⇒国は、調査結果に基づき、事業者に指導・助言等の措置を講ずる。

販売段階

- ・ 福島産の農産品等を置く販売スペースの確保
- ・ オンラインストアにおける販売の支援 等

○民間企業と連携した取組

- 「ふくしま応援企業ネットワーク」では、会員企業と連携し、福島県産品関連のフェア・イベント情報の発信、社員食堂等での食材利用、企業マルシェなどを実施。
- 東京電力HDでは、2018年9月～2019年2月に「発見！ふくしま」キャンペーンを実施。小売店等と連携したイベント・フェアの開催等を通じて、常設棚の拡大や福島県産品メニューの定番化等を実現。



イベント会場の販売風景

⇒ **引き続き、関係省庁や民間企業等と連携して、福島県産品の風評払拭及び購買の促進に積極的に取り組む。**

- このように、経済産業省は、海外とのコミュニケーションや風評被害対策に積極的に取り組んできた。
- こうした中、本年4月に公表されたWTO上級委員会の報告書において、韓国による日本産水産物等の輸入規制措置がWTO協定違反であるとする日本の主張が認められなかったことは誠に遺憾。
- 今回の報告書を踏まえ、政府としても、改めて、復興に向けて努力されてきた被災地の水産業者の皆様の気持ちに寄り添いながら、以下のような、徹底した風評被害対策等に取り組んでいく。（令和元年5月17日農林水産省・外務省・復興庁・厚生労働省・経済産業省「WTO上級委報告書の結果を踏まえた対応方向について」抜粋）

○訪日外国人客の多い外食店で被災県産水産物の安全性をPR

○福島県産水産物の魅力や安全性をPRする供給ルートの拡大

○映像メディアを活用し被災地の水産現場の魅力をアピール

○「復興五輪」海外発信プロジェクトの実施

○2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連レセプションにおける被災地食材の利用・紹介

○海外への適切な情報発信

1. 輸入規制措置の解除に向けた戦略見直しと輸出拡大に取り組みます

・放射性物質に係る食品規制を緩和・撤廃

関係省庁がこれまで以上に緊密に連携し、G20や首脳・閣僚会談等あらゆる機会を活用したハイレベルの働きかけ、事務レベルの協議や在外公館からの働きかけの強化により、規制措置を維持する23カ国・地域で放射性物質に係る食品規制の更なる緩和又は撤廃を目指す。

具体的には、（ア）輸出額が大きい主要な国・地域、（イ）周辺諸国である東南アジア諸国、（ウ）中東・アフリカ等のその他の諸国など、協議の進捗状況や実情等に応じて働きかけを抜本的に強化。

（農林水産省、外務省、厚生労働省他）

・現在輸出が認められていない東北水産品（ホタテ・活牡蠣等）の輸出解禁

青森県、岩手県又は宮城県産のホタテ・活牡蠣・ホヤのうち、EU・米国等への輸出が認められていないものについて、年内に海域モニタリング等を実施し、輸出解禁に取り組む。（農林水産省、厚生労働省）

2. 予期せぬ経営環境に窮する被災地水産業者を支援します

・被災地水産業者向けに大都市圏での展示商談会を開催

被災地水産業者の販路回復・拡大を図るため、「復興水産加工業等販路回復促進事業」等を活用し、3大都市圏をはじめ大都市圏での展示商談会を開催。（農林水産省）

・ホヤ養殖業等からの魚種・漁業種転換を支援

販路回復に苦しむホヤ養殖業者等に対し、「漁業・養殖業復興支援事業」（いわゆる「がんばる漁業復興支援事業」）を活用し、例えば、ワカメなど漁業者が希望する魚種への転換を支援。（農林水産省）

3. 徹底した風評払拭に取り組みます

- ・ **訪日外国人客の多い外食店で被災県産水産物の安全性をPR**

新たに、外食店で被災県産水産物を訪日外国人等に提供することを支援し、被災県産水産物の安全性とおいしさをアピール。併せてインフルエンサーを活用し、SNS等を通じ魅力発信。（農林水産省）

- ・ **福島県産水産物の魅力や安全性をPRする供給ルートの拡大**

大型量販店において、福島県産水産物を、その魅力や安全性を説明しながら常設販売する取組を拡大し、福島県産水産物の消費地における供給ルートを拡大。（農林水産省）

- ・ **映像メディアを活用し被災地の水産現場の魅力をアピール**

被災地の水産現場の実情とその魅力を映像化し、被災県産水産物を提供する外食店や大型量販店で放映することで購買意欲を喚起する他、電車内ビジョン等を活用し広く安全性と魅力をPR。（農林水産省）

- ・ **「復興五輪」海外発信プロジェクトの実施**

在京大使館関係者の参加を募り、被災地の視察ツアーを実施予定。被災地の養殖現場の視察や、魚介類を食する機会を提供。（復興庁）

- ・ **2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連レセプションにおける被災地食材の利用・紹介**

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会及び東京都が実施予定の海外向けの大会関連レセプション等の機会に、水産物を含む被災地の食材を提供し、食材の安全性を発信。（復興庁）

- ・ **海外への適切な情報発信**

在外公館等からの各国・地域当局関係者への情報提供や、国内外のレセプション等の外交機会を最大限活用した効果的な情報発信。また、海外のインフルエンサー等の招へい等による被災地等の食品安全の情報提供、複数言語による食品安全に関するウェブ記事の発信等。（外務省、農林水産省、経済産業省）

廃炉・汚染水対策において顕著な功績をあげた作業チームへの感謝状授与

本年4月に、厳しい作業環境下において困難な課題に果敢に挑戦し、顕著な功績をあげた作業チームに対して、内閣総理大臣、経済産業大臣及び経済産業副大臣（原子力災害現地対策本部長）名の感謝状を授与。平成28年4月以来、2回目の授与。

内閣総理大臣感謝状

○ 3号機プールからの燃料取り出しに向けた線量低減工事及びカバー設置工事

〔(株)東芝 福島第一原子力作業所、福島第一原発3号機原子炉建屋カバーリング工事JV〕
〔山田工業(株) 福島営業所、(株)富永工業、(株)横河ブリッジ 福島第一原子力発電所作業所〕



事故直後の3号機



現在の3号機

経済産業大臣感謝状

① 2、3号機格納容器内部調査

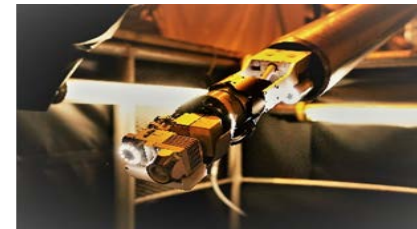
〔東芝エネルギーシステムズ(株) PCV内部調査チーム、
東芝プラントシステム(株) 福島第一安定化作業所、
東芝電力放射線テクノサービス(株) 福島第一事務所、
(株)Orano ATOX D&D SOLUTIONS 福島営業所〕



凍結管設置作業状況



凍土壁確認状況



② 凍土遮水壁設置工事

〔鹿島建設(株) 東京土木支店工事第5グループ 福島第一凍土遮水壁工事事務所、
ケミカルグラウト(株) 福島第一凍土遮水壁工事事務所、カジマメカトロエンジニアリング(株) 福島連絡事務所〕



内部調査で活躍した遠隔操作ロボット

経済産業副大臣（原子力災害現地対策本部長）感謝状

① 1号機タービン建屋内滞留水除去のための線量低減工事

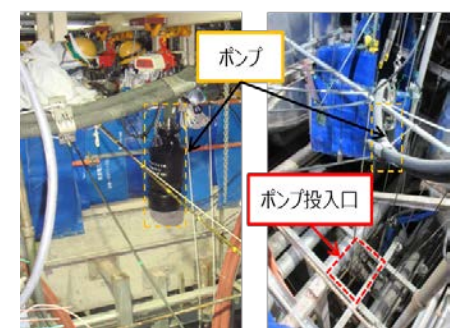
〔(株)アトックス 福島復興支社、(株)松永エンジニアリング、
(株)澤建、(株)矢内工業、早川工業(株)〕

② 1号機タービン建屋内滞留残水排水設備設置及び同関連除却工事

〔日立GEニュークリア・エナジー株式会社 福島現地事務所、
(株)日立プラントコンストラクション 福島原子力復興工事作業所、
サンテック(株)、共栄電装(株)〕



遠隔除染ロボット



地上階からの遠隔作業 11

廃炉・汚染水対策において顕著な功績をあげた作業チームへの感謝状授与

内閣総理大臣感謝状 授与式

開催日：平成31年4月14日（日）
場 所：福島第一原子力発電所
授与者：安倍晋三 内閣総理大臣



安倍総理による激励・挨拶



授与式の様子



授与式後の作業チームメンバーとの車座

● 安倍総理と作業チームメンバーとの車座参加者の主な発言（抜粋）

・谷篤さん（東芝プラントシステム㈱、浪江町出身、事故前に大熊町に移住し、現在はいわき市在住）

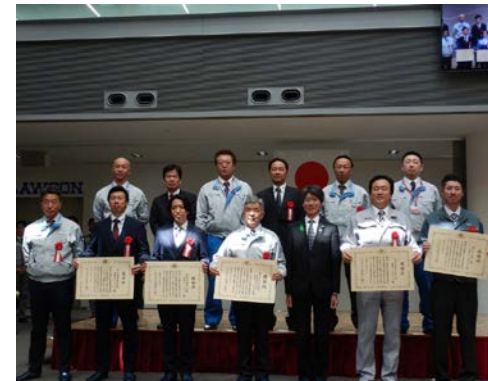
『子供たちが故郷と思っている大熊町を安心して安全な街にしていかなければいけないと思い、そのためには1Fの廃炉作業を1日でも早く終わることが何より安心して安全なことになると思い今日まで頑張ってきました。』

・吉田岩雄さん（山田工業㈱）

『現場は高線量、装備は重装備といった非常に厳しい作業環境でしたが、作業員に無駄な被ばくをさせないよう、一つ一つの作業を無駄なく確実に行うよう心がけました。みんなが納得するまで徹底した作業打ち合わせを行い、作業時間を管理しながら作業を安全に遂行することができました。』

経済産業大臣、原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）感謝状 授与式

開催日：平成31年4月16日（火）
場 所：福島第一原子力発電所
授与者：磯崎仁彦 原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）



授与式後の参加者全員との記念撮影